

生涯学習情報紙

2021

3月

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第327号



危険ドラッグシンナー等乱用防止強調月間

3月11日(木)～4月10日(土)は、危険ドラッグシンナー等乱用防止強調月間です。危険ドラッグを乱用すると、おう吐やけいれん、意識消失などが起き、死亡に至ることもあります。また、精神へ影響を及ぼし、**自分の意志で乱用をやめることができなくなる危険性**もあります。危険ドラッグは大変危険な薬物なので、好奇心などから安易に手を出したら絶対にいけません。家庭、学校、地域などそれぞれの立場で危険ドラッグ等の薬物乱用防止に努めましょう。



春の「郷土に学び・育む青少年運動」

3月11日(木)～4月10日(土)は、春の「郷土に学び・育む青少年運動」、また、関連して、2月～5月は「春のあんしんネット・新学期一斉行動」実施期間です。

春は、卒業・進学・就職など、青少年にとって人生の節目となる貴重な経験をする大切な時期です。

青少年の生活環境が変わるこの時期に、家庭、学校、職場、地域及び関係機関・団体が連携・協働して、青少年の健全育成と非行防止対策、社会環境の浄化活動等を全体的に展開いたしますので御協力をお願いいたします。

青少年が健やかに育つには、親や大人の役割と責任が大きいことを深く認識し、子どもたちの手本となることが大切です。特に、家庭や地域でのあいさつ・声かけの励行など、保護者や地域の大人が子どもの良き手本となる行動・活動を実践し、モラルやルール等の遵守など社会

中山昭二あにいの四方山話(よもやまばな)

～野茶坊のはなし～

先頃、地元新聞に“やちゃ坊”についての記事が載っていた。その中で、出生地については、大和村の津名久か瀬戸内町の油井であると言われ、住居跡だと伝えられている岩屋は住用の川内川の川上流に残っている、とのことだった。

確かに、その岩屋の場所は津名久から近い距離にあり、“やちゃ坊”が集落に下りて来たという話も津名久に残っている。また、島唄の『やちゃ坊節』には、「やちゃ坊と言えば やちゃ坊 彼を見た人はいない。いや、津名久のいくざね主が、やちゃ坊を見たよ。」という節がある。このことがいつしか津名久が出生地だと思われるようになったのではないかと思う。

明治10年生まれで、物語(むんがたれ)の語り部として有名な津名久の福島マヨマツはんには、昭和51年に郷土雑誌の取材を受けた際、“やちゃ坊”の出生の伝説について語っている。「“やちゃ坊”の父親は琉球の石大工で、瀬戸内町の阿木名の豪農の家に仕事で来ていた。その間に、阿木名の女性と子どもが出来た。その子が“やちゃ坊”だと言われているが、その女性とその家の奉公人だったのか集落の女性だったかは不明である。」

家のない“やちゃ坊”は、昼は里に下りて食べ物を盗み、夜になると山へ帰るといふ暮らしをしていたという。しかし、暴力を振るったり、女の人たちにいたずらをするようなことは決してなく、憎めない人間であったと伝えられている。また、活動は龍郷や笠利が主であったようだが、広い範囲にわたっていたらしい。

そんな中、ある集落で人家が荒らされるのが続いた。すると、これは“やちゃ坊”の仕業に違いないとなり、集落民総出による「やちゃ坊狩り」が決行された。住用の山の中で役人に殺されたという説もあるが、瀬戸内町阿鉄川上流にある洞窟で死んでいたのが後日見つ

令和2年度公民館講座(報告)



令和2年度は、18の講座に、総勢175名の方が受講されました。また今年度は、26名の方が精勤賞を受賞されました。ご苦労様でした。

懐かしの一枚

昭和45年の大金久集落です。広い砂浜が特徴的です。手前の栈橋は、マンガン鉱石の搬出に使われたものだそうです。



3～4月は卒業・進学・就職など様々なお祝いなどがある時期です。コロナ感染予防のために、三密を避け村内での感染者の発生防止に御協力をお願いいたします。